



手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害者」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいくことだと考えます。

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月、9名のメンバーで発足。

☆神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2007年6月現在、川崎3、横浜3、県域11 計17名で活動中!!

～ '06年神通研集会 第1分科会報告～

～ サークル会員に望むこと ～

- ・強制されてやるのではなく、自ら気付いて変わって欲しい
- ・教えてもらうことだけを求めるお客様意識は捨て、出来ることはやるという意識を持って欲しい
- ・カルチャーセンターとは違うので、お膳立てされたところに都合の良いときだけ参加という考え方は変えていって欲しい
- ・手話を付けないでおしゃべりは、サークルではルール違反。わかる手話だけでも良いし、簡単な身振りでも良いので、聴こえない人たちがそばにいるということは常に意識して欲しい
- ・時には何の目的で手話を始め、サークルに入ったかということ振り返ることも大切
- ・出来れば手話を健聴者の楽しみだけで終わらせないで欲しい
- ・手話単語を覚えることだけに拘り、ろう者に通じない手話で満足している人もいる。手話を覚えることが目的ではなく、手話でコミュニケーションを取ることが目的ということに気付いて欲しい

「手話に理解や関心を持たない人たちよりも、きっかけは何であれ、手話に関わってもらえたことは嬉しい」あるろう者の言葉です。次に出来ることは・・・。レベルアップは手話だけが限りません。

～ 定例会 ～

* 5/27 (日) 定例会を行いました*

6/30 に開催する「災害」をテーマにした「サークル研究班」主催学習会を前に災害対策についての情報交換を行いました。

各地域で障害者を対象にした「災害学習会」が、開催されているようです。一般社会に聴こえないことの理解を広げるためには、聴覚障害者の人たちの学習会や防災訓練への参加が不可欠です。

サークルでも聴覚障害者の人たちといっしょに学習会へ参加してみたり、携帯電話各社が行っている「災害用伝言板」サービス活用方法の情報交換を行ってみてはいかがでしょうか。

【次回定例会】6月30 (日) 10:30～12:00
かながわ県民センター 12階 ボランティアコーナー

～サークル研究班メンバーのささやき～

平成19年度がスタートして、2ヶ月が過ぎました。

毎年、新年度に入ると「今年こそは、サークルを毎週欠かさずに・・・」と宣言し、13年。この宣言を実現できた年はありませんが、13年間サークルに通い続けてきたことに自分で拍手。何事も長続きしなかった私が、サークル運営に関わり活動できたのも、今までに出会ったろう者のおかげです。これからもいろいろな出会いを楽しみに頑張ります。

(えん)